

2026年6月8日

マレーシアにおける LNG 受入基地開発に関する共同開発契約の締結について

東京ガス株式会社

東京ガス株式会社（取締役 代表執行役社長 CEO：笹山 晋一、以下「東京ガス」）は、2026年5月15日、Gas Malaysia Berhad（社長兼グループCEO：アズリ・モハメド、以下「ガスマレーシア」）およびエネルギー貯蔵・ターミナル事業会社の VTTI B.V.（CEO：ガイ・モーエンス、以下「VTTI」）と、マレーシアにおける LNG 受入基地「RGT Yan」（以下「本基地」）の共同開発契約を締結しました。

本基地は、マレーシア・ケダ州ヤン地区のプラウ・ブンティング沖に FSRU（浮体式 LNG 貯蔵・再ガス化設備を搭載した船）を設置し、LNG の受入・貯蔵・再ガス化を行う計画です。再ガス化能力は年間最大 600 万トン、総事業費は 20 億～30 億リングットを見込んでいます。

マレーシアでは、産業部門および発電部門を中心に、今後も天然ガス需要の増加が見込まれています。本基地は、マレー半島北部における新たな LNG 受入地点として、既存の受入地点への依存を低減し、供給源の多様化およびガス供給の安定性向上に貢献します。

東京ガスグループは、経営ビジョン「Compass2030」において「LNG バリューチェーンの変革」を掲げています。長年にわたる国内外での事業経験を通じて蓄積してきたノウハウを活かし、LNG インフラ事業の拡大を通じて、これからもアジア諸国の発展と低炭素社会の実現に貢献していきます。

Gas Malaysia Berhad 社長兼グループCEO アズリ・モハメドのコメント

本共同開発契約の締結は、ガスマレーシアが LNG・ガスバリューチェーンに沿って垂直方向に役割を拡大する上で、重要な節目となります。東京ガスや VTTI といった世界的に認知された企業と提携することで、国際的なベストプラクティスを活用しながら、本プロジェクトをマレーシアの国家エネルギー政策の中しっかりと位置付けることができます。

VTTI B.V. EVP Growth トム・スミンクのコメント

VTTI は、この戦略的な LNG インフラプロジェクトにおいて、ガスマレーシアおよび東京ガスと提携できることを嬉しく思います。マレーシアでガス市場自由化が進む中、本基地は、グローバルな LNG ターミナル・プラットフォームの構築と供給安定性の強化を目指す当社の戦略を後押しするものです。マレーシアはすでに VTTI にとって重要な国であり、当社はパートナーとともに、同国の長期的なエネルギー・レジリエンスと成長を支えることを目指してまいります。

東京ガス株式会社 代表執行役副社長 海外事業カンパニー長 糟谷 敏秀のコメント

東京ガスは、1992年のガスマレーシア設立への参画以来、同社との協力関係を通じて、マレーシアにおけるガス事業の発展に取り組んできました。本事業では、国内における LNG 受入基地の開発・運営に関する知見や、フィリピンにおける FSRU 事業への参画を通じて培った知見を活かし、マレーシアにおける LNG バリューチェーンの構築に貢献していきます。

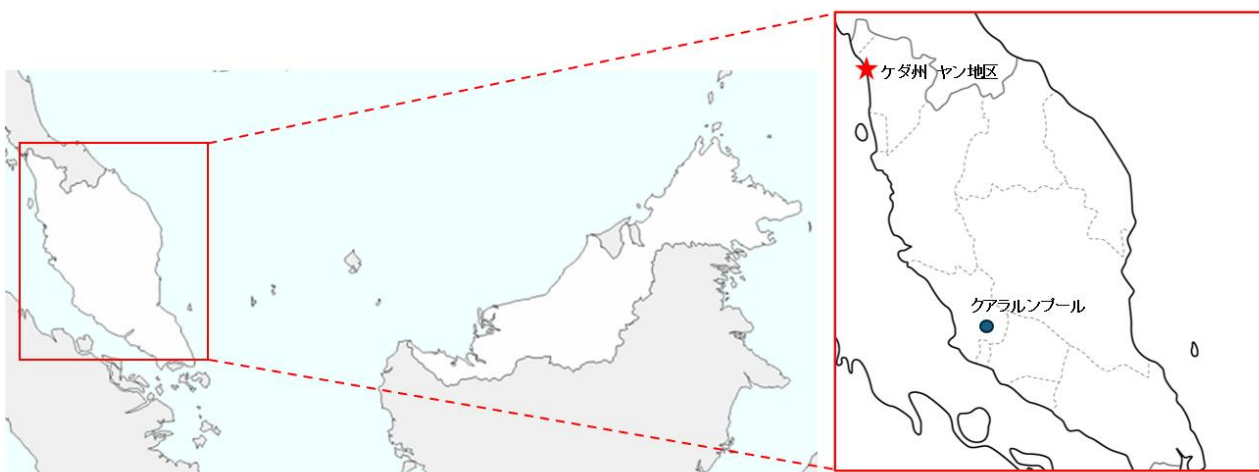
■ガスマレーシア社の概要

会社名称	ガス マレーシア ベルhad (Gas Malaysia Berhad)
代表者	社長兼グループCEO アズリ・モハメド
設立年月	1992年5月
本社所在地	マレーシア・シャーアラム
株主構成	MMC社(30.9%)、東京ガス三井HD(18.5%)、ペトロナス社(14.8%)
主な事業内容	都市ガス事業等

■VTTI B.V.社の概要

会社名称	VTTI B.V.
代表者	CEO ガイ・モーエンス
設立年月	2006年11月
本社所在地	オランダ ロッテルダム市
主な事業内容	エネルギー貯蔵・ターミナル等のインフラ開発・運営

■本基地開発予定地



以上